

大学活用モデルケース

みらい設計ストーリー

大学時代に積極的に学び、社会と交わり、考えを深めた早稲田未来さん。
学生生活を通して得た知識や経験が、今、社会人として働く彼女の土台となっています。
喜びからも苦勞からも多くのことを吸収し、成長を続ける未来さんの歩みをたどります。

政治経済学部
国際政治経済学科卒業

早稲田未来さんの場合



SCENE 1 1年生4月

国際関係論の授業で 世界と日本を見つめ直す

「世界のなかの日本」という視点で政治経済を学びたいと思い、国際政治経済学科に入学。学部の基礎科目で「国際関係論入門」を履修した。国家間の協力関係や民族紛争など、さまざまなグローバル 이슈を学び、国際ニュースを見るのがますますおもしろい。「日本もアジアの国々と協力して、平和と共栄を目指すことが大事だ」。

1年生

入学

SCENE 3 2年生夏休み

国際開発の仕事には 語学力は不可欠だ

多様な学びを経て、やはり国際開発にかかわる仕事がしたいと、将来の方向性が見えてきた。そのために語学力は必須なのでエクステンションセンターの講座でTOEICのコースを選択。目的が見えてきたせいか学部の勉強にも身が入る。夏休みは留学センターが提供する短期留学プログラムへ参加し、タイの大学で歴史、文化、宗教など幅広い分野に触れた。

2年生

大学生活

知識と経験を獲得し多くの力を蓄える

SCENE 2 1年生4月~夏休み

見えてきた自分の興味関心 より深く学べる場へ行こう

国際協力を肌で感じようと、平山郁夫記念ボランティアセンターが提供するオープン科目「東南アジアの開発問題とNGOの役割」を受講した。教育開発について討論し、本当に現地に役立つ開発とは何かを考えるように。また、授業の一環でラオスへ行き、教育開発の現場を見学。受益者、支援者、研究者と意見交換し、国の発展における教育の意味を痛感。

4年生

就職活動
開始

SCENE 5 社会人3年目

大学時代の経験が 今の自分を支えている

会社に入社して3年目に念願のインフラ事業部へ配属。初めての現場はインド。道路整備の現状視察を進めるなか、協力をお願いした現地人の時間感覚やワークスタイルに戸惑うばかり。ふと大学1年次にラオスで会った研究者の「人づくりこそ国づくり」という言葉を思い出す。根気強く話し合うと、地元の人々の高い柔軟性や創造力が見えてきて、計画実現に一筋の光が。

卒業
就職

社会人生活
学生時代に得た力をさらに深めつつ新しい力を蓄える

SCENE 4 3年生~4年生

充実した4年間の足跡を 未来の自分につなげる

3年次の秋、キャリアセンターで就職相談を受けた。途上国支援にかかわる道はNGOだと考えていたが、「ほかにも選択肢があるのでは?」と助言され視界が広がる。1年後、途上国でインフラ整備を行う会社に就職が内定。卒論は大学4年間の学びの集大成に。「ラオスにおける都市開発」をテーマに、開発現場を自分の足で歩いた経験を活かして完成させた。

未来へ

SCENE 6 社会人8年目

どんな苦勞も実になる! 目標に向けて邁進

インドの道路整備に携わって5年。道路が開通し、活気づく街の様子や人々の笑顔を見ると「大学時代からの目標がひとつ叶った」と感慨深い。今思うと、着工時に地元の人々から理解を得られず何度も住民説明会を開いたこと、情勢不安で工事が中断されたことも懐かしい思い出。多くの人と苦難を乗り越えた経験を活かし、国の舗装率をさらに上げるべく尽力したい。

早稲田未来さん

